

2014総会の様子



頼られる先輩に!

2015 関東支部 同窓の集いのご案内



同窓の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。日頃は同窓会活動にご支援とご協力を賜り誠に有難うございます。

本年三月一八日、母校の第六七回卒業証書授与式が挙行されました。私は同窓会関東支部を代表して来賓として参加して来ましたが、最近の卒業生数は二〇〇名と昔の半分以下となつてしまいました。その中でもまた多くの先輩たちが東京に巣立って来ますので、彼らが困ったときには頼られる先輩でありたいものです。さて、同窓会関東支部活動の最大イベントである「同窓の集い」ですが、今年度も早くから計画を進め、今年の当番幹事である二八回生と共に会を盛り立てるべく準備を進めております。私事ですが三期六年の任務を終える最後の総会となりますので一層力を入れ、例年に負けない総会懇親会を目指しております。どうか皆様のご来場を心よりお待ちしております。

会長 佐藤 勝

「同窓の集い」へのおさそい

新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

題字 宮 絢子
2015.5.10
第26号

発行人 佐藤 勝
編集 山下 治郎
事務局 長谷川康夫
神奈川県川崎市
麻生区向原3-5-5
TEL 044(953)8368
ホームページ http://www.murakou.com/~kanto/index.htm



- とき 平成二十七年六月二〇日(土) 正午より受付開始・一時閉会
- ところ スクワール麹町 千代田区麹町六一六
- TEL 〇三(三三三三四)八七三九
- アクセス JR中央線・総武線四谷駅 下車麹町口徒歩二分
- ・地下鉄丸ノ内線・南北線四谷駅
- 会費 七千円
- ・男女とも
- ・平成二二年〜二五年度卒三千円
- ・新卒者(二六年度卒) 無料
- ※会場準備の都合上、五月末日(日)までに出欠のご返事をお願いいたします。

絆のために、一歩前に!

副会長 山下 治郎(19回)



母村村上高等学校は明治三三年(一九〇〇年)に開校しました。今年で一五年になります。故郷への思い、伝統の思い、恩師、級友への思いは日常生活では必要性を感じないかもしれせん。しかし人生を豊かに生きるために必要なものだと思います。同窓会関東支部総会の担当幹事学年として同期の仲間と企画運営をやり遂げ、先輩の厳しさの中にある優しさに触れた時に少しこの会のために自分の力を注いでみようと考えました。現在広報紙担当副会長として、この広報紙を作るのは結構大変です。でも出来た広報紙によって新たな出会い、絆が生まれてくれると信じて作っています。記事取りの意味もあるのですが出来るだけ多くの行事に参加することを心がけています。私以上に佐藤会長、長谷川事務局長の頑張り、ほんの少しでは済まないと思います。感謝の気持ちで一杯です。今、私に出来ることは、私が出来る広報をがんばることです。そして、皆さんに出来ることは、時間を都合して関東支部の「同窓の集い」に参加すること。もつとがんばれる人は仲間を誘うことです。その行動が佐藤会長をはじめとする私も含めた運営に関わる人に勇気とがんばりを与えてくれます。

先輩、後輩、同期の皆さんが貴方へ
会えて喜びを感じます。それが貴方の
明日への元気になると思います。
(幸手市在住)

盛会

「二六年度同窓の集い」

平成二六年度の「同窓の集い」は平
成二六年六月二八日(土)四谷駅そば
スクワール麹町で開催されました。

梅雨時で開始前は小雨が降っていた
にもかかわらず開場前から沢山の方が
来られ、受付の所から再会の輪が広が
りました。二六年度は例年より一週遅
い開催にもかかわらず昨年とほぼ同数
の方々にご参加をいただきました。

午後一時開会、物故者に黙祷、開会
の言葉、会長のあいさつとスムーズに
運営されていきます。

続いては事務局長より会務報告と会
計報告が行われました。収入は昨年度
より総会参加費を減額した分、減額と



恒例の鏡割り

なりましたが支出を削減し繰越金を増
やす事が出来ました。

25年度 収入の部		25年度 支出の部	
総会会費・お祝い金	143名 1,061,000円	総会費	1,069,495円
維持会費	385名 901,000円	印刷費	319,657円
雑収入	96円	通信費	251,240円
前年度より繰越金	577,005円	維持会費払込手数料	32,440円
合計	2,539,101円	旅費及び慶弔費	73,250円
		会議費	134,136円
		同好会	6,350円
		次年度への繰越金	652,533円
		合計	2,539,101円

25年度 収入の部	
総会会費・お祝い金	143名 1,061,000円
維持会費	385名 901,000円
雑収入	96円
前年度より繰越金	577,005円
合計	2,539,101円

その後、会計監査報告がなされ拍
手で承認されました。
来賓は村上高校中島校長をはじめ本
校同窓会役員のかたなど村上からご参
加いただきました。

関東支部総会の司会役を 担当して感じた事

佐藤 隆 (26回)

私は村高卒業後は東京の大学に進
み、そのまま東京で鉄道関係の会社に
就職しました。仕事、子育て等で生活
に忙しく、故郷を懐かしむという気持
ちは湧いてはきませんでした。ですが
ら、村高同窓会関東支部が存在する
ということも知りませんでした。



楽しく歓談

卒業をして四〇年近
くたつて、
定年が近づ
いてくる
と、心のど
こかに故郷
を懐かしむ
気持ちが生
まれるよう
になってき
ました。そ
のせいか七
月七日に開
催される村
上大祭、八月の七夕祭りには帰省する
ことが多くなりました。平成二五年の
村上大祭に帰省した時に、同じ町内の
高橋初雄さんと出会いました。高橋さ
んは二年先輩の二四回生で関東支部の
役員をやっておられ、幹事会に誘って
いただきました。

その後、台東区上野にある新潟県人
会館で開催された、関東支部の幹事会
に出席しました。出席して感じたこと
は、役員のみなさんからは「ウエルカ
ム」という雰囲気私に伝わってきて、
暖かさを感じました。私は一生懸命活
動している役員の皆様の姿をみて「手
伝わなければならぬ」という気持ち
になりました。あわせて、平成二五年
度の関東支部の総会の幹事は二六回生
の担当であることを知らされ司会を担
当することになりました。平成二五年
度の総会は同期生である松澤豊さん、
川勝樹夫さん、川村英美さんと一緒



アトラクションの司会をする筆者(左端)

(横浜市在住)



小川名誉会長を偲んで

富樫 利男 (旧40回)

村上高校同窓会関

東支部名誉会長の小川景士さんが、昨年六月開催の関東支部同窓会総会・懇親会に出席して間もなく、肺炎により急逝された。



小川さんは、旧制村上中学四〇回生で、私等の同期生である。私は小川さんとは生涯にわたりつき合いが濃く、ご逝去後に生涯の友であったとの認識が深まり、強い哀惜の情を禁じ得ない。

顧みると、小川さんは昭和一三年春に村上中学に入学すると、直ぐに優等生のトップとして頭角をあらわした。人柄も良いので、リーダー的存在でもあり、中学四年終了で、難関の旧制新潟高校文科の入試に合格した。

一方、私の方は、学力も人柄も小川さんには到底及ばず、差が大きかったので中学の低学年の頃は小川さんと親しい付き合いはなかったが、当時の先生方は、教育に対する情熱と責任感が強く、陸軍幼年学校の受験に落第して笑っていた私は、担任の先生から強く叱責された。負けず嫌いなのでこの叱責を忘れず、又冬期に村上町の良い下宿先が得られて勉強するようになり、

好運乍ら私も中学四年終了で陸士の入試に合格できた。

小川さんは、旧制新潟高校に入学後も、全寮制のもとで、寮の総務担当幹事として活躍する等、高校生のリーダー的役割を果たした事を一年後新潟高校に入学した村中同期の友人から知った。

小川さんは、旧制新潟高校卒業後は東京大学法学部を卒業し、大手の民間会社に就職したが、司法試験に合格して昭和四〇年頃から弁護士として東京第二弁護士会に所属して活躍し、昭和五二年には弁護士会の副会長に就任している。小川さんは弁護士五〇年の大変大きい業績を残した。



26年度集う会での小川名誉会長(右から2番目、右端は筆者)

小川さんは、母校を深く敬愛する人だった。村上高校同窓会の活躍に大いに協力し、東京オリンピックが開催された昭和三九年頃に村高同窓会関東支部会長に就任し、以来約一五年間会長を勤めた後、名誉会長に推挙されている。

また、旧制村上中学の同期会にも会長として長年注力してくれた。この同期会は会員の老齢化のため、一〇年程前に活動を止めたが、その後元気な一〇名弱の同期生の意向で、再び三二同期会が復活。この会は現在年に二回新潟市で開催されており、小川さんは亡くなるまで東京から必ず出席した。

最後に小川さんの人柄について述べたい。昭和二〇年代に、小川さんは結婚して現在の住所である杉並区に新居を持った。その頃は呼ばれて新婦の春子奥様の手作りの御馳走をいただいた。小川さんのご逝去後、私は春子奥様に電話して重要な事を知る事が出来た。

それは、小川さんは非常に我慢強い人だったという事である。私は眼から鱗の落ちる思いであった。格別に秀才で社会でも大いに活躍したような男は、とかく傲慢で、長年苦勞を共にしてきた妻への思いやりに欠ける傾向があると思っていたからである。小川さんは人柄の面でも傑出した人物であったと思う。(東京都板橋区在住)



野球部の思い出

本間 保 (17回)



村高野球部との出会いは中学三年の時です。村高の野球部が県大会で活躍をしたことを新聞で知りました。

私は野球の強い高校に進学したかったこと、村高は自宅から通学出来る高校では一番近いこと、さらに先輩から村高野球部の現状、将来性を教えてもらったことにより、この部なら自分の活躍の場所があると判断して村高への進学を決めました。希望あふれる高校生活と部活動!と思いきや、波瀾万丈の三年間が待ち受けていたのです。

一年生の時はベテラン監督の指導により軟式球から硬式球に慣れ、先輩にレギュラー争いでプレッシャーをかけられるくらいに成長することが出来ました。

勝負の二年生になる直前、「監督が他校に異動する」という大変な事が起こったのです。村高を選択した、いの一歩の理由が野球部監督の存在だったのに・・・新しい監督には野球の指導が出来る先生と願ったのですが、四

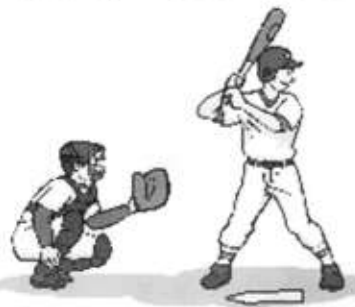
あの日
あのころ
いまじぶん

月のスタートは名目顧問の先生が就任しました。案の定、新顧問は野球の指導も初めてで内野のノックも思う所に打てない。外野にはフライ、ゴロでも届かない状況でした。試合の時は先輩が助っ人でノックをしてくれほっとしたものでした。新監督のもと多くのエピソードを残し二年生が終わったので

三年生の時は少し上達した監督のもと春季大会に挑みました。二回戦は秋季県大会優勝、北越大会でも準優勝して県の強化指定校になった新発田高校と対戦しました。小雨降る中での試合七回表を終わり3対4の劣勢、敗色濃厚でしたが、七回裏の攻撃で奇跡の大逆転で勝利を手にしました。新聞では相手校は強化指定校で県外遠征までやったのに二回戦敗退とはと酷評されていました。新米監督の下で県優勝校を撃破することが出来たのです。

監督不在で廃部の危機の野球部の監督を引き受けていただいたことで三年間休むことなく野球に取り組むことが出来たのです。監督には卒業後お会いしていませんが感謝しています。

高校卒業後も勤めながら五〇代まで草野球



を続けました。今は四〇代から始めたゴルフにはまっています。関東支部同窓会の集いに参加するようになった切っ掛けは一七回生の幹事年の前年からです。そこで春・秋の臥牛会ゴルフコンペを知り参加させていたいただき先輩後輩との親睦を深めています。

また、二年ごとに瀬波温泉で行う村高三年三組の同級会に休まず参加しています。心身ともに高校時代に戻り一時を過ごして再会を約し帰省します。健康に気をつけ、同窓会、同級会に末永く参加出来ればと思っています。

(東大和市在住)

ライフワークと音楽

安富 成良 (19回)



昨年三月に四〇年以上携わった高校・大学での教員生活に定年を迎え終止符を打った。途中三年間の米留学による休止期間はあったが、特に大学教員になってから自分の研究テーマになった「戦争花嫁」(戦後進駐軍兵士と結婚して渡米した日本人女性)の研究についてはこの先もライフワークとして取り組んでゆきたいと思っている。

戦争花嫁の研究者が比較的少ないこともあって、「戦争花嫁」をキーワードにグーグルで検索すると私が携わった共同研究や著作などがフロントページに結構出ている。その為かTV局や



企画展にて皇后様と筆者

新聞、雑誌等から問い合わせが来ることがある。昨年仲間由紀恵主演の「森光子を生きた女」というTVドラマが放映されたが、初婚の相手がハワイ出身の日系二世兵士ということで取材協力の要請があり、ドラマ終了時のエンディングクレジットに私の名前を出していた。戦後七〇年の今年もNHKのドキュメンタリー番組を制作する会社から取材を受け、史料をお貸しした。

平成二一年に三ヶ月間、JICA横浜の海外移住資料館で開催された「海を渡った花嫁物語」の企画展に皇后陛下のご行幸を賜り、ご説明と見学後に懇談の機会を得た。拙著『アメリカに渡った戦争花嫁』(二〇〇五年、明石書店)の共著者の戦争花嫁の会の会長さんが皇后陛下関連のことを書いていた関係で、事前に濱本女官長と打ち合わせをし、直接皇后陛下



せをし、直接皇后陛下も一部加筆修正して下さった。直接お話ししたのはご行幸の日が初めてであったが資料館でお迎えしたときには開口一番、「ようやくお会いできましたね」というお言葉をいただいた。また見学後の特別室での懇談では「これから国際結婚をなさった方たちの研究をお続けになり、力になってあげて下さい」という内容の暖かいお言葉を頂戴した。光栄の至りである。

戦争花嫁研究のきっかけとなったのは、アメリカ留学時の長期休暇中LAなどのピアノパーでピアノ弾きのアルバイトをし、そこで戦争花嫁さんと出会ったことによる。趣味としての音楽が学費稼ぎの助けになるとは夢にも思っていなかった。帰国後、高校の英語教師に復帰した時に新体操部の顧問をお願いされ、部員の個人種目や団体演技の曲を数曲作曲した。優秀な部員のお陰で都大会や関東大会、全国大会でも私の曲を使用して演技してくれた。

昨年の定年記念コンサート等の他、今年四月三〇日には陸前高田の一本松の流木で製作されたヴァイオリンを使用しているコンサートを企画運営し、杉並公会堂小ホールで友人のN響のヴァイオリン奏者&オーボエ奏者、箏曲家らと共演した。

これからもライフワークの研究と趣味の音楽を心の支えとして過ごしたいと思っている。

(狭山市在住)

「旧校舎での思い出と同期会」

本間 正彰 (23回)



私達が在学した昭和四三年から四六年は、高度経済成長、アポロ一号の月面着陸、大阪万博など良き昭和時代の最後だった。英語の大嶋先生、古文の宝井先生、数学の加治先生、生物の佐藤先生など名物先生も沢山おられ多感な高校生活を楽しんで。在学中には創立七〇周年記念式典が開催され当時文部大臣だった大先輩稲葉修氏が講演に来られた。三年生の一月には三島由紀夫の自衛隊総監部での籠城割腹事件が起こり、授業中に現国の増子先生が血相を変えて教室に



入ってこられたのを昨日のこのように思い出す。同年秋、校舎火災で図書館の貴重な蔵書が消失したのは残念であった。



筆者のフェスブック (FB)

移転する。

時は巡り、平成二二年村高同窓会関東支部の総会幹事に我々の昭和四六年度卒組が指名され、旧友との交流が復活する。総会では親友の文教大学教授八藤後忠夫君が学生を率いて和太鼓を披露し会に花を添えた。そしてこれを契機に我々四六年度卒業期の同期会も毎年開催することとなり、クラスが持ち回りで幹事を担当し会場も同じ四谷スクワール麹町で行っている。昨年は我々八組が幹事で私は司会進行役を仰せつかった。早生まれの仲間も昨年は還暦を迎え二三名もの仲間が集まった。話題も現役リタイヤや、第二の人生そして孫自慢に移ってきたものの旧友が一堂に会するとたちまち「少年少女」に戻るのも同期会の不思議さだ。

近況報告や昔話に花を咲かせ、大盛会のうち無事進行役を果たすことができた。その模様は同期会の Facebook グループにアップしてあるのでこの拙文を読まれた同期生は是非ご覧いただきたい。

Facebook の孫自慢仲間であった初代の同期会長の川又茂君は残念ながら一昨年鬼籍に入ったが、天国でこの会を見守っていてくれただろう。

私は高校卒業後、法政大学工学部に進み長年エネルギープラントの構造設計に携わった。此の間数人の男子同期生以外は疎遠だったが、この同期会が縁となり、高校時代は声を掛けた事もなかった「少女達」と川越の街で吟行を洒落てみたり、高校よせがきノート(村高は四八二番で有名な新橋の有薫酒蔵 (<http://www.shinbashi-yukun.com/>))で往年のマドンナと旧交を温めたりしている。これも関東地区同窓会のお陰だと感謝している。

(さいたま市在住)

海外から村高を思う

新野 有次 (30回)



皆さん、初めまして。この度は Facebook を通じて繋がった同期生(三〇回)の友人の勧めで投稿させて頂きます。私は関川村出身で、大学卒業後約二年程新潟に住んで以降は殆どの期間を海外で過ごしてきました。



現地の皆さんと記念撮影

た。現在はタイに住んで一二年が過ぎましたが、それ以前にはアフリカ、東南アジア、南米で発展途上国の農業開発を支援する技術協力事業に関わってきました。可能な限り一年に一度は実家のある関川に帰って、家族や友人との再会と日本の食べ物と温泉につかるのが楽しみです。

私はバンコクにある F A O アジア太平洋地域事務所(二〇〇三年一月に赴任して以来土地管理専門官 (Land Management Officer) として働いています。主な任務はアジア太平洋地域諸国の食料安全保障と持続可能な農業生産を促進するための土地利用管理法、特に土壌と天然資源の保全・管理に関わる技術や政策作成を支援することです。当地域事務所は四六カ国を担当していますが、私が担当する内容の

仕事は主に東南アジアと南アジア諸国に多くあり、年に一〇〇日近く出張する年もあります。特に昨今の気候変動と自然災害への対応が年々増加しています。先週も東チモールで実施中のプロジェクト(保全型農業の普及による食料と栄養の改善と災害危機軽減)に出張してきました。

国連に勤めて一二年になりますが、それまでにJICA(現国際協力機構)専門家等として経験してきたことはとても役に立ちますが、国連はまた違った環境です。振返ってみると二〇歳で大学を休学して参加した渡米研修(ハワイ一年)を始めに、途中数年の国内勤務を除いて青年海外協力隊(カーナ)、JICA技術協力専門家(ミャンマー、ブラジル)、留学(米国、ナイジェリア)、そしてFAO職員として二五年以上海外農業技術協力に関わって来た事になります。気が付いたら自分も随分遠くまで来たものだと思う時があります。あと一〇年足らずで所謂退職を迎える予定ですが、出身地のある新潟に帰るのか考える昨今です。子供たちはアメリカで暮らしていますし、冬の寒さは恐ろしくもあり、どこに住みやすいのやらと。それまでの間、体力と気力の保持と長い間薄くなっていた同窓との交流を増やしていきたいと思っています。(バンコク在住)

国際連合食料農業機関(United Nations Food and Agriculture Organization, UN-FAO)アジア太平洋地域事務所
(Regional office for Asia and the Pacific)

第四回歴史散策会
「横浜金沢区・称名寺
と伊藤博文別荘」

一〇月二三日(水)雨 参加者一七名

田所 和子(17回生)

あいにくの雨模様にもかかわらず、申し込んだ全員が参加した。



午前中は京急金沢八景から「歴史の道」と呼ばれる旧国道を称名寺まで辿る。源頼朝が「鎌倉の東北の守り」とした由緒ある瀬戸神社、伊藤博文や金子賢太郎らが憲法の草案を練っていた「東屋(あずまや)」跡と「明治憲法草創の碑」、そして名刹「龍華寺」を巡った。

「海釣り屋」等の建物の間から海が見え、雨天でも磯の香りが漂ってきて「ああ、港町！」と感激した。昔、このあたりの釣宿によく来たという人もいた。



瀬戸神社

称名寺の門前「ふみくら」で全員温かい「ぜんざい」に舌鼓を打つ。遠藤さん差し入れの「栗の渋皮煮」も美味しく頂戴された所で



ふみくらでのティータイム

「称名寺」へ。「浄土庭園」と呼ばれる景色は、あいにく雨に煙っていたが、春の桜、晩秋の紅葉の頃にはさすがと思われる風情だ。鎌倉幕府の重鎮であった「北条実時」から一五代執権まで続き、充実し発展してきた。

昼食は、昭和五年開業の由緒ある料亭「金沢園」で。高浜虚子、与謝野晶子もここで会を聞き、また戦時中は「横須賀海軍」の将校達も訪れたという。和気あいあいと食事を楽しむ、体も温かくなった



称名寺山門前で



ガイドさんの説明を聞くもめげずにご参加された方々、有難うございました。皆様、今秋こそ、ごぞつてご参加くださいますよう。お誘いします。(藤沢市在住)



称名寺で全員集合

ゴルフ同好会 「臥牛会」



第53回臥牛会コンベ 於いて第カントリークラブ 2014.4.30

中は小雨程度で、午後は途中の二ホールくらいは傘を差してのプレーと予報に反してまずまずのコンディションで行われました。

結果は、五回目の参加で一七回生の本間保さんがベストスコと合わせて見事に優勝を飾り、準優勝は二〇回生の菅原悟さん、第三位は一四回生の村山孝夫さんでした。



表彰式

千葉県野田市紫カントリー倶楽部

・優勝 本間 保 (17回生)

NET 七六

・準優勝 菅原 悟 (20回生)

NET 七八

・三位 村山孝夫 (14回生)

NET 八〇

第五四回(秋季)コンベ

平成二六年一〇月一四日(火)に実施を予定していた第五四回臥牛会ゴルフコンベですが、台風一九号が接近したため延期のやむなきに至り、鈴木亮会長の一何としても今まで一回も休みなく続いてきたコンベを中断してはいけない。」という強い指示もあり、同年一月四日(火)に恒例の紫カントリー倶楽部あやめ西コースで実施いたしました。日程変更のため参加者は九名と少なかつたのですが、抜けるような青空のもと、絶好のコンディションの中



日程変更で参加者が少なかつたです

プレーが行われました。

結果は、初参加の一五回生永井文男さんが断トツの成績でしたが、初参加者規定のため、ラッキーにも二位の瀬下江二(二一回)が繰り上げて優勝となりました。三位には佐藤勝さんがご自分曰く「鬼の居ぬ間に」と頑張つて食い込みました。

・優勝 瀬下江二 (21回)

NET 七九

・準優勝 永井文男 (15回)

NET 七一

・三位 佐藤 勝 (14回)

NET 八〇

(臥牛会事務局 瀬下)

私の趣味「ゴルフ回想」

藤田 円 (32回)

四年ほど前からゴルフ同好会「臥牛会」のお仲間に入れていただきました。臥牛会コンベは春秋二回開催されています。仕事等の都合で皆勤出席という訳には、なかなかいきません。参加出来た時は、優しく楽しい先輩方とラウンドさせていただいています。コンベでは、ほっこり暖かい気持ちで帰ることがいつも出来ます。不思議なものです。ね。同郷・同窓の出身で同じ趣味を持つている事が初対面でもすぐに打ち解ける事が出来ます。自分のスコアはどうあれ参加者の皆さんからパワーをいただき、また頑張ろうという気持ちになれます。先輩方ありがとうございます。残念なことは、この会で同期の方、後輩の方に、まだお会いしたことがありません。心よりお待ちしております。



臥牛会コンベで同組の人達と。筆者は左端



私がゴルフを始めたのは大学に入学し一・二年とゴルフ部に入学したからです。大学は三・四年生は千代田のキャンパス、一・二年は郊外の広大な茶畑の中でした。三・四年は忙しくなるので、親と二年間の約束でゴルフ部に入学しました。今は女子ゴルフという

と華やかに思われるかも知れませんが、厳しい、奴隷の一年、平民の二年、天皇の三年、神様の四年という体育会の世界でした。一年生は上級生を盛り上げ練習や試合に集中してもらうように様々なお手伝いと気遣いがありました。ラウンドではキャディバッグを担いで走って回ります。ホールアウトすると先輩のバックも反対の肩に担いで先に走りました。二年生は合宿や合同練習の時に三・四年生をフォローしながら一年生の指導係をやりました。今では懐かしい良い思い出です。

現在、私は東京二三区内にある某ゴルフ場に勤務しています。勤務が休みの平日に、近所のゴルフ仲間の方々と定期的にコンペをして楽しんでいきます。子育て等で数年の大ブランクもありましたが、お仲間と一緒にラウンド出来るのは、本当に有り難い事です。ここ数年はスポーツジムに通っています。ゴルフ以外にもボディーコンパットという総合格闘技系のエクササイズに夢中です。昨年よりベリーダンスも始めました。

村上の親元で暮らしていた一八才までの頃は、おとなしく表千家の茶道や絵を描いたりしていました。文化芸術

系から体育会系と大きく方向性が変わってしまいました。でも言えることは過去から今も、きつと未来も、家族や周りの皆様に感謝！なのだと思います。
(東京都北区在住)

同期会便り 一三回生

故郷の秋を満喫

瀬波温泉で同期会

大滝 修 (13回)

二〇一四年一〇月八日、一三回生は八回目となる同期会を瀬波温泉・汐美荘で行いました。



当日は心配された台風も一過、秋晴れのもと八三名の参加を得て人生六巡目を迎えた交流と親睦のひと時を楽しみあげました。

ふりかえれば一三回生が初めて同期会を開催したのは卒業三〇周年目の一九九一年。これまでの人生を振り返る余裕も出て、なにかと昔のことが思い出され、また、忘れてかけていた記憶をよみがえらせるには恰好の時期、たつたのかもしれない。卒業以来初めて、三〇年ぶりの再会は今でも蘇える、感激あふれる瞬間でした。以来、幹事役のクラス持ち回り制、親睦と交流紙として「同期生通信」を発行してきたことが長く続いた要因といえるのかもしれませんが。その幹事順送り制も前回で一巡。今回からは二組ずつのダブル制

となりました。

思えば、高校時代は三年間という短い時間ではあったものの、学舎をともにし、同じ時代を生きてきたものどうし、写真などを見ているうちに消えかけていた記憶も除々によみがえり、思わぬ発見もあつたりして、今では在校時以上に親睦が深まっているように思います。

カンパで発行している「同期生通信」は思い出や来し方の歩み等々を綴り、一五年二回発行、B4判六ページ前後、今年二月で四三号を数えました。当面五〇号を目指し、何とか頑張っていこうとしているところです。

同期会当日、ロビーには再会を喜び



大蓋高原の場所

合う声が広がり、宴席では一連のセレモニーもどかしく、幾つもの談笑の輪が広がり、またたく間に予定の二時間も過ぎました。別会場では二次会も持たれ、人生の余暇を心ゆくまで楽しみあげました。

翌日は、折角の機会、たった一日で別れるのももったいないとオプシヨンによる半日の近郊ツアーが企画されました。六台余の車に分乗してホテルを九時に出発。大毎部落の名水百選一吉祥清水から天蓋高原を回り、布部のやな場で買い求めたアユの塩焼きを肴に朝日村の同期生宅で昼食。はさがけの新米によるおぎりは美味しさバツグン。秋の一日を心ゆくまで満喫、二年後の再会を期して散会となりました。
(つくば市在住)



天蓋高原の場所

維持会費納入のご協力をお願いします！

同窓会関東支部の活動を支える唯一の財源として、皆様に年間一口(2000円)以上の維持会費をお願いしています。同封の振り込み用紙にて納入をお願いします。昨年度は沢山の方々からご協力をいただきました。本年度もなにとぞ、よろしくお願ひ申し上げます。事務局

ご支援に感謝します

村上高等学校 校長 中島郁雄

関東支部総会の開催、おめでとうございます。昨年、支部総会に出席させていただき、多くの同窓の皆様から、村高に寄せる熱き思いをお聞きいたしました。九〇歳を超えてなお現役の方もおられ、驚きの一語に尽きる思いでした。



昨年は、同窓会のご尽力で、校門にかかっていた校名板を新調させていただきました。これまでの校名板は、新制高校がスタートした昭和二三年頃に作られたもので、六五年以上の歳月が経過し、文字もかすれかかっています。



た。「新潟県立村上高等学校」と

旧漢字で表記された校名板の揮毫をしたのは、かつて新潟県立村上中学校に勤務し、当時東京都東



村山市立東村山中学校長であった泉清三郎氏でした。新調するに当たって、製材所を営む本校OBの菅原敏一氏(26回)からケヤキの板を無償で提供していただき、これに加藤組が旧校名板の文字をそっくり転写することで完成しました。

新しくなった校名板が取り付けられた校門を通り抜け、村高生が毎朝元気に登校してきます。すれ違う生徒すべて挨拶がすばらしく、すがすがしい気分が一日が始まります。村高生は、毎日、学業、部活動と精一杯励んでいます。本校は、少子化や全県一学区となった影響からか、ここ数年定員割れとなつていますが教職員は、前にも増して熱意を持って指導に当たり、一人ひとりの進路実現を図っています。今後も、皆様の期待にお応えできるよう、また社会に貢献できる人材作りを目指し教職員一同一丸となつて取組んで行く所存です。これからもご理解ご支援よろしく願います。

「村上つれづれ」 加藤 治郎 (19回)



ふるさとだより

現在私は子供の頃に過ごした、瀬波温泉で酒屋を営んでいます。若いころのことは省きますが、32年前に千葉の西船橋でサラリーマンをしていましたが、両親に呼ばれて帰ってきました。いわゆる一昔前です。帰ってきて良かったことはすぐ近くに海があることでした。村高時代は水泳部でしたので、夏は店を閉めてから夜でも泳ぐことが出来ることでした。月あかりの中で泳ぐ海はとても気持ちの良いことでした。

その頃は海底の様子はだいたいわかるので安心して泳ぐことが出来ました。商売の方は関東と違って、まだスーパーやコンビニストアは来ていない時代でしたので、ただただ一生懸命働いていればよかったと思います。ですが、現在は時代の波に押しされ、お得意様のホテルや旅館さんそして飲み屋さん、だんだん少なくなってきました。おそらく車社会になり道路網が便利になったので、旅行者や地元のお客が流動的になってきたのだらうと思います。

現在の村上とは言いますと御多分にもれず少子高齢化をむかえ町中は古い家などが駐車場となっているところが多く目立つようになりました。それでも村上には先人の知恵で戊辰の役では戦場を避けてくれたそうなので、古い町屋がまだまだ残っています。家の宝である何百年前の人形や屏風を見に来る観光客はバラバラですが跡をたちません。こちら瀬波温泉はと言われますと、あまり特徴がありませんが、92℃の源泉と一日の疲れを一瞬に忘れさせてくれる夕日が沈む日本海が見られることかなと思います。

夏になると、海の無い他県のお客が今でも海水浴にたくさんやって来ています。冬は村上から1時間以内に行くことの出来る素晴らしいスキー場が三箇所もあり、リタイヤー(定年者)したスキーヤーをはじめ、元気のところ狭しと滑っています。

(写真 わかぶなスキー場で筆者)

最後は宣伝になりますが、地元で出来たおいしい米で、お酒を地元の酒蔵で造っていただき、地元の酒屋で売って高いことができることの「地元の恵み」に感謝し、これからも村上を大事にし続け、伝えていきたいと思ひます。



編集後記



執筆者の紹介をいただくことから始まり、紹介いただいた方に原稿を依頼し、原稿を送っていただきました。今回、寄稿いただいた方にお礼申し上げます。また紙面の校正にも沢山の

方々に目を通していただきお手をかけました。この人に、この記事をお返し原稿を依頼しましたが一七・一九回の記事が多くなつてしまいました。紙面づくりは、なかなか上達しなく、後記ではいつもお詫びばかりです。未熟さをお許し下さい。

山下